

京都府推進委員会委員長（京都府知事）賞  
**犯罪の起きない社会へ**

京都府・京都市立下京涉成小学校 六年

田村 優依

私は、毎日と言っているほど、犯罪のニュースを見かけます。こういうニュースを見るたび放っておけなくなります。そしていつ、似たようなことが身の回りに起きてもおかしくないと思ってしまう。なぜなら、子どもの虐待や学校生活の中でのいじめ、人をケガさせるなど私たちの周りでもどこかで起きないとは限らないと考えるからです。私はいじめを受けている人や犯罪をしている人たちを、少しでも減らしたいと思いました。その取り組みとして、どのようなことができるのか、自分なりに考えてみました。

私は、「人との関わりを大切に、安心した環境を保つ」ということが、社会を明るくするために必要なことだと考えました。犯罪を犯した人の動機には、生きづらさを感じていた人や人間関係に悩みを抱えていたという人がいます。その中で感じたことは「周りに相談できる人がいたか」ということです。これが、犯罪や非行を減らすための「カギ」となるのではないかと思います。これは、自分の経験からも言えます。

私は、友達関係に悩んでいた時期がありました。友達とうまくいかなかったりして、「どうしたらあの子と仲良くできるだろう」と思い詰めてしまったり、「自分があるとき、こうしていれば…」と自分を責めてしまうときがありました。そんなとき、私は思いきって親に相談しました。そしたら親は、私の悩みに耳を傾けてくれました。私の心にあった霧のようなものがだんだん晴れて、少し明るくなったことを覚えています。

私は、このつながりが人との関わりを大切に、悩みを抱えている人の不安を和らげることができるのではないかと思います。これ

は授業の中でも大切だと思つときがあります。私の通っている学校は、ユネスコスクールで、毎月、人権について考える「なかまの日記」という学習があります。詳しく言うと、LGBTやいじめ問題、障害、国際理解など社会における様々な人権について、学習しています。学習の最後の「ふり返り」の時間では、学習したことをどのように活かしていきたいか、どう考えるのか、考えを深めていきます。その際に、認め合う努力や受け止める心を持つこと、支えることが今の人間関係、人権に必要なと考えています。また、この環境を育むためにも、地域の方との関わりも必要だと思っています。私の学級では総合の時間を活用して、「地域座談会」を行いました。地域座談会では、地域の方と直接お話し、「これからの校区について」などを題材として、交流を深めました。この数年はコロナウイルスの影響で、イベントが中止になってしまい、地域の方との交流が減ってしまいました。ですが、総合の時間を活用したことで、地域の方との交流やつながりが増え、安心した暮らし良い生活環境になると思いました。

私は人を傷つけるようなことをしてはいけないと思います。ニュースや新聞で見た情報をそのまま聞き流すのではなく、この地域に起きてはならないと考えることが重要です。まずは、一度立ち止まって、人間関係から見直していくことが重要だと思います。私は、自分だけでなく、社会を生きる人達が見直していくことで、犯罪を減らす努力につながるのだと思います。

私はこれから中学生になります。生きていく中でたくさんのお会いがあります。そんな時も関わりを大切に、視野を広げ、人と向き合っていくことを大切にしたいです。そして、私が心の霧に悩まされたときのように、私と同じような人がいたときは、次は私が、その人の心の中の霧を晴らしたいと思います。

京都府推進委員会委員長（京都府知事）賞

## だれもが安心できる社会

京都府・南丹市立美山小学校 五年 小寺翼

ぼくが四年生の時、学校が安心できるどころではなくなってしまいました。悪口が飛び交ったり、けんかが多発したり、先生に反抗する人がいたりしたからです。だからぼくは学校に行くのが嫌になりました。それからぼくは、学校を休むようになりまし。学校には行きたいけれど、だれかが嫌な気持ちになっているところを見たり、嫌な言葉を聞いたり…ぼくが直接言われたり、されたりしてなくても、心が痛むから学校を休んでいました。

そんなある日、ぼくの中で「もう良くなっているかもしれないから一度行ってみよう」という気持ちがかたすみに出てきました。そして、一度行ってみることにしました。しかし、学校を休む前と全然変わっていませんでした。やっぱり休めばよかったと思いましたが、次の日が日直だったので、朝のスピーチで思っていることを言ってみようと思えました。ぼくは家に帰ると、早速自分の思っていることを自主勉強ノートにまとめました。

次の日、朝のスピーチが始まりました。みんなに聞こえるように、はっきりと話始めました。

「ぼくは、最近、学校に行くのが嫌になっていました。なぜかといつと、学校が安心できる場所ではなくなっていたからです。」

すると、みんな真剣に聞いてくれていて、伝わっていることが実感できて安心しました。以前のスピーチでは、日直の人が真剣に話しているの、「聞こえませーん!」とか「もうちょっとはつきりしゃべってくださいー!」などと、スピーチを最後まで静かに聞かない人がつるさくしていたのですが、ぼくのスピーチは、だれもしゃべらずに、最後まで静かに聞いてくれました。

「ぼくは、安心できる四年生教室にして、みんなと仲良く学校生活を送りたいです。」

最後まで自分の気持ちを話すことができてもみんなも最後まで静かに聞いてくれたから、勇気を出して言えてよかったとホッとしたり、スッキリしました。感想を言ってくれた子も、「そんなことを思っていたんだと思った。直していいよ」と言ってくれて、これから変われると思いました。

ぼくは、自分の思っていることを話すことは大切だと思ったり、聞いてくれる人がいることも大切だと思いました。だから、普段からお互いに話しかけたり、支えたりして、何でも話せる関係をつくるのが大切だと思います。そうすることで、何かあったときに、少しでも早く話せる人に話して、そのもやもやした気持ちをなくせるようにすることが、だれもが安心して過ごせる社会をつくることにつながると思います。また、一人一人が一度止まって考えてみるということも大切だと思います。なぜかといつと、先のことでも考えずにそのままの思いで行動に移してしまうと、結局自分が後悔することになると思うからです。そうならないように、「今しようとしていたことをすると何かいいことがあるのか」「自分がしようとしていたことを行動に移してもいいのかな」など、行動する前に考えることで、落ち着いて行動できるようになり、自分も周りの人も大切にできると思います。

人はだれでもイラついてしまうことだってあるけれど、どんな理由があってもだれかを傷つけることは決して許されることではないので、一人一人が自分の行動に責任をもち、だれもが安心して過ごせる社会になったらいいと思います。

京都市推進委員会委員長（京都市知事）賞  
**他人事ではなく自分事**

京都市・南丹市立胡麻郷小学校 六年 池田 百花

ある日の授業のこと、担任の先生がクラスみんなに問いかけたことがありました。「世の中には、犯罪やひ行など悲しいニュースをよく耳にしますが、皆は、聞いたことはありませんか。」クラスの友だちが、手を挙げて知っているニュースをどんどん発表していました。しかし、次に先生が、「なんで、犯罪やひ行を犯してしまうのかな。」の質問には、勢いがあった手がピタッと止まって皆は、周りをキョロキョロと見渡し始めました。私自身も、犯罪やひ行をしてしまった人の気持ちをこれまで一度も考えたことがありませんでした。クラスの中で男の子が、「犯罪やひ行をする人は、悪い人やからしてしまうんや。」と言った言葉に周りの皆はうなずいていたけれど、私は、心の奥で何かモヤッとしたように感じました。

その日の帰り道、私は、登校班の友だちとこのことについて話しました。人を傷つけたり、うそをついたり、だましたり。なんでそんなことをしてしまう人がいるのだろうか。不思議に思っている時に友だちが、「私達も、友だちを傷つけたり、うそをついたりしてしまうことってあるよね。」と、小さな声で言いました。ドキッとしましたが、そのつばやきに気付かないふりをして家に帰りました。夕食の時に、私は、この話を家族に伝えることにしました。すると、警察官の父母から「誰にでも過ちを犯す時はある。その時に、しっかり責任をとり、新しいスタートを切ることが人として大切なんじゃないかな。」と、言われました。学校生活をふり返ってみると私は以前、友達とトラブルを起こしてしまったり、都合が悪くはうそをついてしまったりしてしまったりです。その時は、何も考え

ず行動に出てしまったけれど、自分のしてしまったことをふり返る時には、心臓がドキドキして涙が出てしまいます。「なんでこんなことをしてしまったんだろう。」とむねが痛みます。家族や先生に悪いことを叱られている時には、自分のしてしまったことの重大さに心がギョツと締めつけられることもあります。

このように自分が経験したことをクラスの皆で話し合いました。すると、似たような経験をした友だちがたくさんいて、同じようなことを感じていたことが分かりました。そして、皆に共通していた理由は、「ついつい」「腹が立って」「こんなことになると思わず。」でした。私は、友達が口にしたこれらの言葉は、犯罪やひ行を犯してしまう人も同じではないかと思えます。罪の大きい小さいはあるけれど、罪を犯してしまうきっかけは皆同じなのだと思います。

家や学校では、悪いことをしてしまっても、その後のがんばりを必ず見守ってくれるお家の人や先生がいます。声をかけてくれるたびに、悪い自分を見つめ直し良い方へと成長させてくれます。お家や学校という小さな社会で、大切にしてくれていることを大きな社会でも大切にすべきだと私は思います。犯してしまった過ちは、消えることはないけれど、その後の人の頑張りをしつかりと応援してあげられる社会になるように、まずは自分自身が人を認められる人になりたいと思います。